



合併祝賀記念行事（仮装行列）のようす
（昭和29年7月 久喜駅前）

新生久喜町の誕生

—公文書でたどる昭和の合併—

H20.8.25 (月) ~ 10.26 (日)



- 開館時間：午前9時～午後5時 ●入館無料
- 休館日：土曜日・祝日(日曜日は観覧できます)
- 久喜市下早見85-1(市役所西側) TEL0480-23-5010
URL <http://www.city.kuki.saitama.jp/>
- 交通案内：JR宇都宮線・東武伊勢崎線 久喜駅西口下車徒歩17分

過去に学び未来を見つめる **久喜市公文書館**

第22回企画展

「新生久喜町の誕生－公文書でたどる昭和の合併－」

1 町村合併の発端と久喜町周辺の動き

町村合併促進法の施行（昭和28年10月1日）に伴い、11月11日に埼玉地区町村合併促進協議会が結成される（会長は久喜町長橋本亮）とともに、南埼玉郡北部議長会（久喜町・太田村・江面村・清久村・鷺宮町・菖蒲町・小林村・栢間村・大山村・三箇村・篠津村・日勝村・須賀村・百間村・平野村の3町12村）でも、他郡にさがけ町村合併促進法の講習会を町村ごとに開催し、町村合併の啓発活動を展開した。

次いで、昭和29年2月下旬に埼玉県町村合併促進協議会の合併試案が公表され、久喜町・鷺宮町・清久村・江面村・太田村の2町3村の合併案が示されたことから、翌3月中旬には、2町3村の町村長・議会議員合同で千葉県との合併先進地を視察し、その際、埼玉県の合併試案に沿って2町3村合併を推進することを申し合わせた。

2 本格的な合併協議－久喜地区町村合併促進協議会－

昭和29年3月の申し合わせに基づき、4月8日に久喜町公会堂で第1回の久喜地区町村合併促進協議会が開催されたが、町内の意見が調整されないという理由で鷺宮町が欠席したため、協議が整い次第いつでも同協議会に参画できるように配慮することにして、とりあえず1町3村により協議を進めることにした。

第2回は13日に清久小学校（鷺宮町はオブザーバーということで2人出席）で、第3回は18日に太田小学校で、第4回は30日に江面小学校でそれぞれ開催され、1町3村で協議を重ねた結果、30日に開催された第4回の協議会で合意に至り、この地方慣習の手打式を行って、1町3村の合併を決定することになった。

なお、鷺宮町に対しては、第3回の会議では文書で、第4回の会議では特使を派遣することで、それぞれ決定し合併を要請したものの、遂に合併への参加は実現しなかった。

3 1町3村の議決と合併申請書の提出

久喜町・太田村・江面村では昭和29年5月5日に、清久村では5月7日に、それ

ぞれ臨時議会を招集し、いずれも満場一致をもって1町3村の合併を議決し、5月8日に久喜町長橋本亮・太田村長宮崎勝良・江面村長黒須晃・清久村長細田平作の連名で、埼玉県知事大沢雄一宛に合併申請書を提出した。

この申請書の中で、新町名選定の理由として、国鉄（現JR）東北本線及び東武伊勢崎線久喜駅を中心に久喜町・太田村・江面村・清久村の1町3村の発展が期待される地理的關係にあることに鑑み旧久喜町の名称をそのまま踏襲することに決定した旨と、新事務所の位置として旧久喜町役場（久喜町大字久喜本1,269番地）を利用する旨とが記載された。また、合併条件及び協定事項のようなものは設定せず、和やかな合併である点も記載された。

4 1町3村の議決と新久喜町建設計画の提出

昭和29年5月17日に新町建設計画(案)が1町3村で確定し、5月19日付けで埼玉県に提出、埼玉県の土木・農務・衛生・総務等の各部において内容が検討され、知事の決裁を経たものが返戻される見通しになったので、5月25日に1町3村のすべての議会で新町建設計画を議決することを決定する。

次いで、予定どおり5月25日に1町3村すべての議会で新町建設計画が議決されるとともに、1町3村間で、①議会議員の任期の特例及びその後の定数、②教育委員会の委員の任期の特例及びその後の定数、③農業委員会の委員の任期の特例及びその後の定数、④財産营造物の帰属、⑤昭和29年度の施策についてなどの協定も締結して、一切の議決を完了し、6月2日に1町3村の首長の連名で埼玉県知事宛に新町建設計画を提出した。

5 新久喜町合併祝賀記念

昭和29年6月21日に、埼玉県知事から内閣総理大臣に町村の廃置分合についての届出があり、昭和29年7月1日に総理府から告示され、同日付けで新久喜町が誕生した。

7月14日～16日の3日間にかけて新久喜町の誕生を祝福する合併記念祝賀行事を催すのに先立ち、久喜駅前や役場前には「祝合併」と大書したアーチが設置されるとともに、合併を記念して各家庭には国旗が配布された。

- 14日 花火打上げ、小学生の旗行列（各地区別）、花自動車巡回、婦人会の踊、芸能大会（各地区巡回）、農機具・学生作品展示会
- 15日 花火打上げ、仮装行列、花自動車巡回、婦人会の踊、農機具・学生作品展示会
- 16日 花火打上げ、中学生の駅伝、花自動車巡回、婦人会の踊、農機具・学生作品展示会

新生久喜市の誕生に向けて

この度、22回目を迎える久喜市公文書館の企画展として、「新生久喜町の誕生—公文書でたどる昭和の合併—」を開催いたしました。

公文書館の標語として国際的にも利用されることの多い「過去に学べ」という言葉のとおり、約半世紀前に実現した1町3村（久喜町・太田村・江面村・清久村）の合併の際に、各町村がどのようなことを考え、そしてどのように合併が実現したのかを知ることは、1市3町（久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷺宮町）の合併をすすめているこの時期、とても意味のあることと思います。

戦後まもなくの地方自治体と現在の地方自治体とでは、少子高齢社会の進展や交通網の拡充等により、その役割は大きく様変わりし、行政の業務が専門化・複雑化しているなか、市民意識の高まりや市民との協働による行政運営等により、今までよりもはるかに高度な行政経営が期待されています。

そういったなか、短期的な損得勘定だけではなく、長期的な視点で久喜市やこの地域の将来を考えた際、どうしても合併は必要不可欠であるという考えを持っています。

当時の久喜町長橋本亮氏を中心に、多くの先人たちは様々な苦労を重ねながら「合併」をやり遂げ、「住民の福祉を増進するよう規模の適正化をはかる合併の本旨にかなない、永年の親善関係、人情、風俗に基づいた相互信頼による和やかな大同合併の実を収め」とともに、合併の障害となっていた「下水道事業」も見事に実現し、現在、多くの久喜市民がその恩恵に浴しています。

今回の企画展が、昭和の合併を振りかえるだけに終らず、平成の市町村合併、すなわち「新生久喜市の誕生」に向けて考える一助となれば幸いです。

久喜市長 田中暄二

[鷺宮町]
人口：35,701人
面積：13.90k㎡



写真：鷺宮催馬楽神楽

[栗橋町]
人口：27,751人
面積：15.78k㎡



写真：ハクレンのジャンプ

[菖蒲町]
人口：21,243人
面積：27.37k㎡



写真：ラベンダー堤

[新市]
人口：157,324人
面積：82.40k㎡



写真：久喜の提燈祭り

[久喜市]
人口：72,629人
面積：25.35k㎡

※ 人口は平成20年4月1日現在のものです